道徳通信

～「小さな出来事」～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年12月1日

～道徳「誰に対しても公平に接するためには、どんな考えが必要だろう？」を通して考えました～

1917年 第一次世界大戦がヨーロッパで起こっています。中国は戦争で負けたり、他国の戦争に巻き込まれたりと厳しい状況でした。中国人でも、役人などの一部は裕福な生活ですが、多くの人々は質素で貧しい生活でした。「身分の差」がはっきりとある時代の話です。

「私」はおそらく国家の要職に就く社会的地位の高い男です。田舎から北京に出て出世を重ねるうちに尊大で横柄な態度が身に付いてしまったと語っています。ある日、「私」が急ぎの用事で人力車に乗ります。車夫がスピードをあげた時突然、老婆が人力車のかじ棒にひっかかったように倒れ込んでしまいます。みすばらしい老婆の安否よりも、自分の都合を優先しようとした「私」は「なんともないよ。やってくれ。」と先を急がせます。しかし、車夫は人力車を止め、疑わしい老婆を助け起こし派出所に連れて行くのでした。その時、「私」はほこりまみれの車夫の後ろ姿が急に大きくなったように感じたのです……。

私に恥を教え、私に奮起を促し、しかも勇気と希望を与えてくれた「小さな出来事」。「私」の心情の変化について、Jamboardを使って話し合い、学習テーマに迫りました。

●● ●●くん

公平な行動は今の自分にはできないので車夫がすごいと思った。私の立場になったことがあるので私に共感できた。みんなのことを平等に見る考えが必要になると思う。

●● ●●くん

基本的人権以外を公平にすると差がなくなる。つまり努力する意味がなくなってしまうため、何にでも公平にという考えはあまり良くないと思った。

●● ●●くん

相手を理解し、自分を押し付けないことが必要で、恥ずかしくない判断を心がける。

●● ●●さん

自分が相手の立場ならどう思うかなど様々な見方をして考えることが必要だと思った。誰に対しても公平に接することは難しいと思うけれど、公平に接することができる人になりたいと思った。

●● ●●さん

私は自分が苦手な人だったりすると態度を変えてしまうことが多いです。本当は、その人のことをよく知らないのに、ただ自分が勝手につけてしまった印象や噂で判断してしまうことが多いです。なので、人によって態度を変えるのではなく、自分のままを残して、普段と同じように話せば、相手も心を開いて、より深く知るのかなと思いました。

●● ●●さん

今の自分は食べ物での好き嫌いがあるように誰に対しても公平に接することはできない。それは一度関係を持っていて相手のことを知っているからだと思う。十人中十人と知り合いだったら好き嫌い分かってしまうけれど全員全く知らない人だったら全員に公平に接することができると思う。

●● ●●さん

1人だけ何かが違ったとしても、それを尊重することはすごく大切。誰かの考え方などが違い、差別されたりするけれど、少しでもその人の意見を聞くことがすごく大切。

●● ●●さん

誰にでも誰かに対して好き嫌いがあることは悪いことではないが、差別など態度で示すことはいけないうとだと思いました。また、広い心を持つことが差別をなくすことに繋がるのかなと思いました。